ちば・谷津田フォーラム

目　次

ちば・谷津田フォーラムの顧問の方から２

谷津田・日本のカントリーサイド
博物学・自然史ライター　ケビン・ショート ---------- 1

船橋市でもっとも豊かな谷津田・里山が消える－坪井地区の開発－
谷津田ネットワーク・みどりの会代表　高山　清隆 ---------- 3

都市住民とともにすすめる棚田保全
大山千枚田保存会会長　石田　三示 ---------- 5

市原市民の森の自然　アイナエ大群生地の保全について
千葉の自然に親しむ会　二瓶　栄子 ---------- 6

カエルのための田んぼづくり－大草谷津での一つの試み－
大草谷津田保全グループ　伊藤　文子 ---------- 7

女性にとっての新しい農業
佐原市　篠塚　多可子 ---------- 8

やち・湧水・土水路
水文研究家　齋藤　正一郎 ---------- 9

くじらの会－学校林を育む会の活動
千葉市立横戸小学校くじらの会 中坊　陽子 ---------- 10

オオタカ・カエル・トンボから見た谷津田の特性と価値
さくら・人と自然をつなぐ仲間　美濃和 信孝 ---------- 11

谷津田で環境学習－幼稚園での実践－
やひろ学園モンテッソーリ子供の家教諭　古川　恵美子 ---------- 12

２１世紀のちば・谷津田フォーラム
ちば・谷津田フォーラム代表　中村　俊彦 ---------- 13

環境シンポジウム２０００千葉会議報告
ちば・谷津田フォーラム事務局　田中　正彦 ---------- 14

ちば・谷津田フォーラム活動記録 ---------- 15
谷津田ファイル ---------- 16
事務局より ---------- 18
ご寄付下さった方々，会則，イベントのお知らせ，顧問，組織・運営，会員名簿

ちば・谷津田フォーラムの顧問の方から２

谷津田・日本のカントリーサイド

博物学・自然史ライター　ケビン・ショート

環境シンポジウム 2000 千葉会議にて（2000.11.19

船橋市でもっとも豊かな谷津田・里山が消える
－坪井地区の開発－

谷津田ネットワーク・みどりの会代表　高山　清隆

坪井とは船橋市内の東部に位置し、駒込川と坪井川に挟まれた台地に点在する小さな集落で、徳川家康から150石の年貢を課せられたという、古い歴史を持つ農村地帯であり、それを裏づけるかのように集会所の入り口には「むらぐるみ農業・指定集落」の看板が掲げてあり、岩佐、斎藤姓を名乗る家が村の大半を占め、親類縁者で構成された平和な集落であったことを物語っています。

ところが、昭和40年代後半に坪井川源流付近の工場から流されたカドミウム混入の廃液が災いし、大きな社会問題（Ｓ47～48年）となり、流域の水田では「カドミウム米」のレッテルを貼られて商品価値を失った多くの水田が休耕田に追い込まれたものでした。

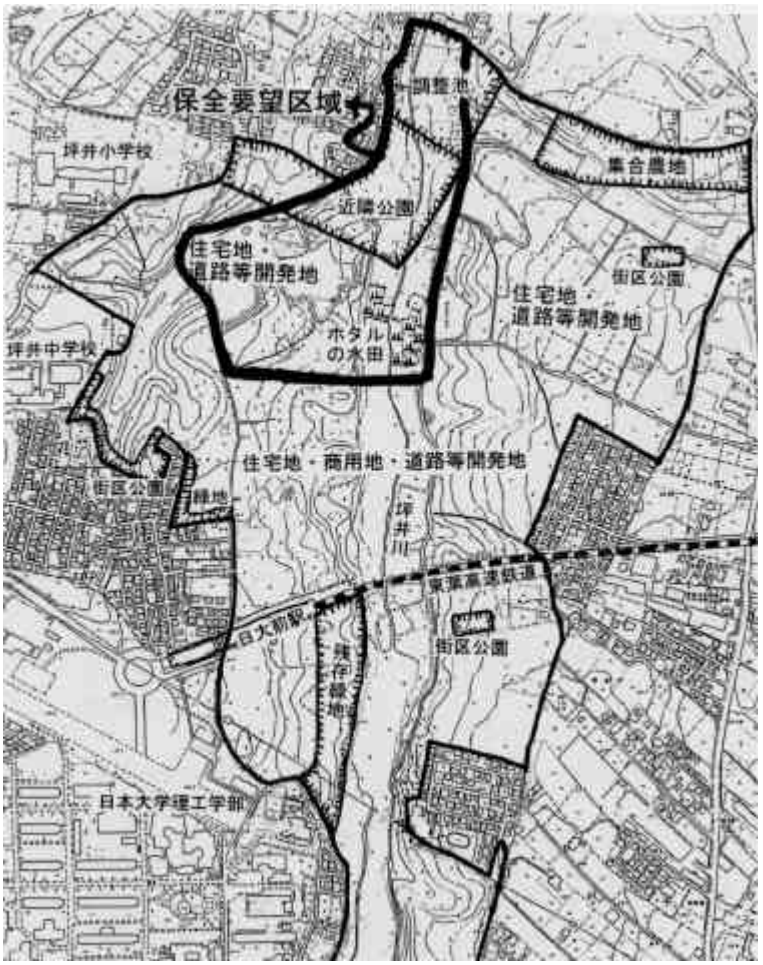

図１．坪井地区の開発計画と保全要望区域

１．暗躍する土地ブローカ

目先の利益だけを追求する土地ブローカにとって坪井の谷津は宝の山に見えたに相違ない。世はまさに高度経済成長の真っただ中で「土一升、金一升」と言われた時代である。彼らは農家を訪ねては、カドミウム汚染を全面に押し立てて言葉巧みに「いわく付き土地」として法外に安い値段で買いあさり、流域の土地の６割り（森と水田）が投機目当ての業者の手に渡ったものでした。

２．電車が運んできた開発

通勤ラッシュ時の混雑緩和と輸送力増強を目指した東葉高速鉄道の敷設工事が浮上したのが昭和60年ころのことである。当初の計画では、勝田台（八千代市）を発車した電車は坪井の谷津をひとまたぎしてそのまま北習志野駅を経由し、西船橋から営団地下鉄に乗り入れようと言うものでした。ところが平成7年2月、近隣住民を集めて（説明会）突如浮上したのが坪井駅（後の日大前駅）の新設と抱き合わせの坪井特別土地区画整理事業計画（65.5ｈａ）と言う名の開発でした（図１）。

図２．切り崩された斜面林．数カ所に集めた土砂が谷津を埋める日を待っていた．

計画とは、その時々によって変更するものと言ってしまえばそれまでの事だが、ラッシュアワーの緩和を目指した新路線（第三セクター／船橋、八千代市が出資）がなぜ開発を運んできたのか疑

問の残る所であり、更に追求を深めると、平成2年バブルの崩壊により、投機目当てに取得した土地の目減りを未然に防ぐ防止策と見るのが妥当と思われるのだが！！

３．無理が通れば、道理が引っ込む

私たちは坪井駅の新設と抱き合わせの開発が平成7年突如浮上したものと思っていたのだが、水面下では平成2年、住都公団（現基盤整備公団）では地元農家（地権者）を集めて土地の取得に翻弄し、異議を唱える農家には嫌がらせ、脅し、口封じは日常茶飯事であったとも言われている。ある農家の言によると、ヤクザ紛いの男たちの度重なる訪問に奥さんが恐れおののき気が転倒して発狂状態に陥り滝不動病院の精神科に入院した、と言う事実も聞かされている。たとえ嘘で固めた土地区画整理事業であっても、アセスも済み、数合わせが整い、建設省が認可（平成9年）した。

以上は手続き上何ら問題は無いと言うのだが、貴重な谷津田や森が壊滅し、多くの野生動植物が絶滅に追い込まれるのは耐えられない事です。

４．公団から門前払いされた要望書

私たちは、基本的には自然を破壊する開発には反対だが、手続きが済み開発が着々と進んでいる以上、これを全面的に覆すものではないのだが、せめて公団が進めている貯水池内に水没する水田とそれに隣接する水田（住宅計画）及び水田に面する斜面林、いわゆる生物が生存する為の最低限度の面積を線引きし、生物の調査資料をつけて公団に提出した要望書（12月20日）の内容も見ないまま拒否されたことは大きなショックであった。

５．流域の主な生物

ニホンアカガエルの卵塊調査(H11年)

流域谷津名	個体数	市町名	備　　考
坪井川流域	９３２	船橋	開発地内の湿田
駒込川　〃	５	〃	八王子神社下
木戸川　〃	０	〃	埋め立て、乾田
三咲川　〃	０	〃	宅地化、乾田
楠ガ山川〃	０	〃	休耕、荒れ地
金掘川　〃	０	〃	乾田
桑納川　〃	６	〃	金掘下湿田
〃	２７	八千代	桑橋工事現場水田
〃	９	〃	安養寺下水田
〃	０	〃	石神谷津、乾田
〃	０	〃	花輪谷津、乾田
〃	０	〃	腰巻谷津、乾田
〃	１０３	〃	菖蒲谷津、湿田

坪井～桑納川流域のヘイケボタルの調査

流　域　名	ヘイケボタル数量（個体）			備　　考
	Ｈ６年	１１年	１２年	
坪井川流域	－	２００	２５０	開発湿田
駒込川　〃	７	－	０	八王子神社下
木戸川　〃	１６	－	０	古和釜
	４７	－	０	東光寺下
	４０	－	３	金掘下
金掘川　〃	３００	０	０	バス停下
	５	－	０	合流地点
桑納川　〃	４７	－	０	八千代市境

注）乾田化で急速に減っているホタルも湧水の豊富な坪井の谷津田では数が増えている。

桑納川流域に生息するニホンアカガエルの卵塊を探して13カ所を歩いたが、カエルが安心して棲める昔ながらの谷津田はわずか2カ所だけであり、坪井川流域は開発地内であり明日の保証はない。ちなみに、印旛沼水系（二重川、神崎川、桑納川）の各流域（谷津）39カ所を訪ね歩いたが、約6割がカエルも棲めない谷津に変わっています。

６．私たちの思い

開発地の一角に保全地区として谷津田や雑木林を残し、体験農業の出来る自然保護ゾーン（図１．保全要望区域）を要求しています。そのためにはぜひ皆さんのご協力とお力ぞえをお願い致します。

都市住民とともにすすめる棚田保全

大山千枚田保存会会長　石田　三示

大山千枚田（鴨川市）撮影：中村俊彦氏(99.7.30)

鴨川市の西部。北に清澄山系、南に嶺岡山系に挟まれ一番奥まった谷あいに点在する棚田。その中でも小さな田んぼがひしめき合って並ぶ棚田が大山千枚田である。

この地域も他の中山間地と同じく過疎や農業従事者の高齢化, 後継者不足などの問題を抱えている。そんな中で地域の財産でもあるこの棚田を生かし都市住民との農業交流の中で地域の活性化をめざし, 平成９年に大山千枚田保存会が結成された。食料生産の現場としての一面はは非常に効率の悪い棚田であるが，その持つ多面的な機能、都市の人々の心を癒す景観のすばらしさ，大地の侵食を防ぐ治山治水の働き、動植物の多彩な生態系，あるいは自然教育の現場としてなど価値が認められている。

大山千枚田は，日本棚田百選のひとつに認定され，景観のすばらしさは多くのカメラマンや観光客の知るところとなったが、その中でも非常に珍しい用水路のない天水の棚田である。春先の雨をしっかりと蓄え、稲を育てる。これは，この地域の土質が蛇紋岩の風化した強い粘土質の土壌によるが，この土質がコメの食味のよさを支えているといわれている。鴨川市の中西部のコメは長狭米といわれ江戸時代から評価されていた記録があるが，その中でもこの地域のコメは高い評価をいただいていたようである。それもこの棚田がいままで耕作されてきた理由なのである。

大山千枚田保存会は結成時，一号会員（地権者）が 26 名、二号会員（鴨川在住のこの運動に賛同される方）51 名であったが，現在は、二号会員 96 名，三号会員（この運動に賛同する都市住民）102 名である。地域外より多くの方々の支援を頂いている。これは都市住民の環境や安全な食への関心の高まりであろう。

平成 10 年には，［大山千枚田からのメッセージ］をテーマに棚田シンポジュームを開催し棚田保全の取り組みを先進事例に探り、棚田から新しい地域作りの発信を試みた。また地域や会員に向けて年４回発行の会報「あんご通信」を通して活動報告や保全活動への協力依頼をし、会の動きや考え方を伝えている。ホームページも開設し、より多くの人達に情報を発信している。

平成 12 年には始めてのオーナー制度の導入をし、39 組のオーナーの受け入れをした。始めての取り組みであったため，当初多少の戸惑いはあったものの、稲作りを通した交流の中でまずまずの成果があげられたものと思われる。来年度 100 組のオーナー受け入れを目指し，支援者協議会を結成し体制を整える。今後，千枚田の保全はもちろんのこと、その周辺まで含めた耕作放棄地の解消やその利用まで会員の皆さんや都市の方々と交流を深めながら，一緒に考えてゆきたい。鴨川に通っていただく、あるいは、半定住，定住まで見据えて取り組みをしたい。このすばらしい地域の財産でもある里山を守って行くことの大切さを保存会活動の中で伝えて行きたい。

市原市民の森の自然　*アイナエ大群生地の保全について*

千葉の自然に親しむ会　　二瓶　栄子

はじめに.

房総半島のほぼ中心部、養老渓谷に近い位置に市原市民の森が有ります。昭和60年（1985年）に開設され総面積117ヘクタール標高60～170m、渓谷状の川が中心部を東西に流れ、その両側には幾筋もの谷が入り組み小さな滝も見られます。コナラ等の雑木林や植林された杉や檜に覆われた鬱蒼とした森、設備の整ったキャンプ場が有り、起伏に富む丘陵地となっています。

アイナエの花（撮影：森将憲氏）

この地の一部草原を埋め尽くして湿地性で草丈５㎝～10㎝白い小さな花を咲かせる「アイナエ」が大群生しています。現在千葉県内では成東の食虫植物群落保護地にのみ確認されている貴重な植物であることが分かり、市原市役所公園緑地課、市民の森管理事務所、手入れの業者等の関係者により「アイナエ」の保全に付いて昨年（2000年10月）結論が出されましたので、経緯を記してみました。

１．アイナエを確認

「アイナエ」を見つけたのは今から6年前の9月、友人と市民の森を訪れた私は観察路を歩いていて芝生の草原（くさはら）が一面真っ白く霜が降りた様な状態になっている事に気が付き、足を踏み入れて見て驚きました。芝草の中に隠れるような形で、小さな白い花がびっしりと足の踏み場もないくらい、辺り一面を埋め尽くして咲いていました。光の加減が違っていたらおそらく気付く事はなかったと思われます。成東の保護地へ良く通っていましたので「アイナエ」である事はすぐに分かり友人達と大騒ぎになりました。調べてみると近くにある3ヶ所の芝原が同じ状態である事も分かりました。とにかく「そっとしておこう」という事になり（踏み荒らされたら消えてしまうと思いましたので）秘密の場所としてそれからの6年、毎年花の季節に訪れて楽しんでいました。

昨年、貴重な様子を記録してもらおうとプロの植物写真家H氏を案内する事となり、花の満開時期に合わせて訪れたところ、地際から綺麗に草刈りされて花はゼロ！おまけに二棟目の東屋やテーブル付きベンチが建っていました。「一年草」の種が付かないうちに丸刈りにされてしまっては今後どうなるのかと気になり、千葉県立中央博物館に相談しました。市原市役所の公園緑地課へ保護を頼んでみたら良い、と教えて下さいましたので市役所へ電話で申し入れをしましたら「現地を見て必要なら保護を考える」との返事でした。毎年草刈りによる手入れがなされたことにより繁殖が続いたとも考えられるのでその旨を話して現状維持をお願いしました。

２．保護に向けて

今年もまた花の様子を見に行き、丁度草刈りが始められたところに出会いました。まだ花盛りで、種は付いていませんでした。慌てて管理事務所に駆け込み、とにかく現場を見て下さいと半ば強引に管理人を案内しました。残念ながら半分の面積が刈られてしまいましたが、ストップしてもらい必死に保全をお願いしました。去年の保全願いは全然話が通じてなく「アイナエ」そのものの存在さえ知られてない有様でした。

県立中央博物館の上席研究員Aさんにお話ししましたところ大変興味を示され、急なことでしたが休暇を取って現地を見て下さることになり、その事を管理事務所に伝えて立ち会って欲しいと依頼しました。当日驚いたことに管理事務所の担当者の他に市役所の公園緑地課、業者の方々10人ほどが事務所に集まって待っていました。まず事務所内でAさんから「アイナエ」に付いて事前の説明がなされました。（博物館に現物を持ち込んで同定済みでした）図鑑やレッドデータブックおよび多くの資料が示され、貴重な植物であることを知って貰い、「一年草」であること、種が落ちないと数年で繁殖が無くなる恐

れがあること等の話がありました。その上で関係者を現地に案内しました。Aさんが調べた結果の「アイナエは群れる性質を持っているが、これは予想以上の群落、去年から話に聞いていたがこの様な状態は想像も出来なかった、全国的に見ても芝原を埋め尽くす状態の報告は無い貴重なものです」との言葉で保護が決まりました。事務所に帰りAさんのアドバイスを受けて市役所、管理事務所、業者の話し合いがなされ保全について次の様な事が決まりました。

・草刈り回数はこれまで通り年5回とする（草を生やしておくと一般市民が苦情を言ってくる）
・九月末の草刈りを延期し10月中旬「種」が落ちるのを確認してから刈る
・東屋やベンチ等をこれ以上設置しない

市原市役所はじめ関係機関の方々がこれらの実行を約束して下さいました。Aさんはじめ協力的だった方々に心から感謝しています。

３．市民の森及び周辺の環境について

内房線の五井駅から小湊線で１時間、月崎駅で下車をし、駅前広場前を左折、すぐに道路の右側へ下る細い道があり間もなく目の前に田圃が見えて来ます。浦白川を挟んで、細長く余り広くない谷津田が里山に囲まれて広がっています。休耕田にはタコノアシ、ガマ、ツリフネソウが群生し、川面にはヒルムシロが浮いています。一番奥まった場所にある谷津田を利用して市民の森が作られたと、管理人の方の話でした。森の外周を取り巻いて「林道万田野線」が通っており、そこが尾根筋になる形で市民の森の内側に向け幾筋もの谷が下ってきます。崖地には侵出水がしたたり落ち、芝生の中の地面の際は水苔に覆われて通年じっとりしていて芝生の管理は大変だろうと思われますが、そのような状態であることがアイナエの繁殖に繋がったのかもしれません。自然の状態をそのままに管理したいと管理人の方の話でした。センボンヤリ、センブリ、アキザキギンリョウソウ、イワタバコ、テイショウソウ、ホトトギス、リンドウ等もそれぞれの株が沢山見られます。今年の11月には貴重な「コキンバイザサ」の花が確認され調査の結果、株が沢山有ることが分かりました。柿、カマツカ、ガマズミ、ヤマボウシ、サルナシ等木の実も豊富で野鳥の声も沢山聞こえる豊かな自然の森です。秋の紅葉が美しくキノコの豊庫であることは余り知られていません。地元の方及び先輩の皆さんと一緒に「市原市民の森」の定点調査を開始しました。

コキンバイザサ

カエルのための田んぼづくり
―大草谷津での一つの試み―

大草谷津田保全グループ　伊藤　文子

「誰か、田んぼを使ってくれる人いない？」ひと昔前だったら考えられないようなセリフを、隣のおばあちゃんが度々口にするようになったのは、３年前に大草に移り住んでしばらく経った頃のことだった。長い間耕作されていない田は、一面のアシの原となり、畦がどこにあるのかも分からない。こんな状態の田んぼが何枚かあるという。

それから暫くして、長谷川雅美先生（東邦大学理学部）がこんなことを言い始めた。「最近、圃場整備や休耕田が増えたことで、千葉県では、地域によってカエルの数が激減している。水路をコンクリートで固めない、昔ながらの農法による田にしか生息できない生物もいる。そんな生物たちが暮らしやすい田んぼ作りをしたいと思うけれど、誰か田んぼを貸してくれないかな」。こうして両者の希望がピタリと合い、農家に育ったわけでもなく、農作業の経験すら乏しい仲間たちが集まっての「カエルのための田んぼ作り」が始まった。

大草の谷津田の入口、東金街道沿いのその田んぼは湿田で、深い所では腰まで漬かってしまう。大学生も含めた７～８人のメンバーで草を刈り、根を抜き、水分の多い泥と共に積み上げて畦と水路を築き、３畳程の広さの「田んぼらし

いもの」が4枚できた。もち米を植え、冬になったら餅つきをしよう、と夢だけは大きくふくらんだが、予想をはるかに越える厳しさに、田植えをする余裕は残っていなかった。やがて夏がきて、野草の成長の優勢勝ちを悟った。

西暦2000年を迎え、空中分解間近のこの計画に明るい光が差し込んできた。生活協同組合　ちばコープのスタッフがメンバーに加わることにより、作業が一気に展開し始めた。「大草一号」と名を改め、４枚あった「田んぼらしいもの」が、８枚の「手づくりの田んぼ」に昇格した。その内の２枚に、農業生産者から分けていただいた古代米（黒米）を植えた。完全無農薬とし、肥料も施さず、時々雑草とりをする程度の作業だったが、夏休みが終わるころには3kgの黒米が収穫できた。また、水を張っているだけの田にも、数種類のカエル、ドジョウ、アメリカザリガニ、ヤゴなどの生物が住み始めた。

谷津田の風景には、ヴィヴァルディの「四季」がよく似合う。初々しい力強さの春、昼は蝉、夜はカエルの大合唱の夏、風のリズムとともに降る落ち葉の秋、霜柱の下でじっと息をひそめて春を待つ冬。１８世紀のイタリアと２１世紀の大草谷津田には、昔から続く共通の美しさがあるのではないかと、いつも考えている。

女性にとっての新しい農業

佐原市　篠塚　多可子

私の住んでいる所は，東関東自動車道路の佐原，香取インターの香取神宮から１ｋｍ以内の所にあります。私の家の経営状況は，水稲 4.2ｈａ（＋秋の作業受託 2.5ｈａ）露地野菜 80ａ，山林 7ｈａの専業農家です。今の先端農業とはほど遠い栽培条件で山と山との間に一枚の面積が小さな田，畑，山とその土地を上手にいかして，農業ができないかと考えて始めた私の農業経営は，自家生産した米，野菜，加工品を箱に詰めて送る故郷宅配便，お客様が自分で野菜を収穫してバーベキューをしたり，自然の中で休憩をしていただけるようにと建てた山小屋を利用しての体験農園，冬の仕事として行っている山の草刈り，枝打ち，枯松伐採等の請負作業，そして無人精米所３ヶ所。

17 年位前親戚を通して始めた宅配便が口込みで広がり，米の販売量が増えていき，精米代金も多くなりましたので，自分も利用し他の人にも利用して戴ければと思って始めた自動精米所。

家にも，米や野菜を買いに来てくださるお客様が多くなってきましたので，お客様も家の人もお互いに気をつかわないで休憩できるようにと建てたのが山小屋です。山仕事をしてできた間伐材を利用して，主人の設計で建てました。山は「千葉県教育の森」に平成６年認定され，自然環境を大事にし，米や野菜もなるべく農薬や化学肥料を少なくしようと精米所の糠を利用した EM 自然農法を平成５年から導入し，安全で食味の良い物をお客様に提供して喜んで戴ければと考えています。

山清掃をして生まれる副産物，椎茸，なめこ，ひら茸等の原木，炭焼きの材料，春の訪れを知らせる，ぜんまい，わらび，タラの芽，新緑の葉，夏に咲く山百合，里山に住んでいる私達でも心がいやされる時間です。嫁ついで来た頃は，田，畑，山といくら働いても時間とお金に余裕がなく，山と言ったらジャングル。どこから手を出していいのかわからない位でした。山だけは私達が清掃をしないと，子供達になったら境界もなにもわからなくなり，山を所有しているのが重荷になってしまうのではと思い，山清掃を始め，今は自分の家の山は全部きれいになり植林も済みました。今は田，畑，山があってよかったと思っています。

家に来て下さるお客様と会話をしている中で，商売の事，税金の勉強，人間関係の事等，農業をしている私達の考え方と違う角度からの話が聞け，とても勉強になります。そして，新しいお客様も紹介してくださいます。

農家の良い点は，自分のやりたいこと，夢が自分のアイデア次第で少しずつでもかなえることができ，楽しく仕事ができると言うことと思って毎日仕事をしています。今はいろいろな所で女性参画と言われていますが，私も香取女性農業者会議の１人で，香取郡市の各市町から 1 名ずつ，10 市町から年に各 10 名で，全部で 30 名で助成農業者経営者としての地位向上，農業経営の改善に関する知識，技術の習得，女性の社会参画をめざして農業に従事している女性が自分自身の経済的自立に目覚め，経営に参画

し，皆が輝けるようにとりっぱなスローガンを持って頑張っています。
　毎年 8 月には印旛，香取，海匝の 3 郡で開く「ふさのくに女性農業者交流会」では，100 名以上の参加者で，お互いのネットワークを広げたり，介護，女性参画の演劇を鑑賞したり，経営訪問をして地位向上に向けて勉強をしています。

やち・湧水・土水路

水文研究家　齋藤　正一郎

１.雨と地下水と河川の流量

降雨　表面流失　雨量の30％前後。降雨時地表を流れて河川に流れ込む雨
蒸発散　雨量の50％前後地面。樹木から蒸発する部分
地下浸透　雨量の20％前後。下浸透して河川に浸みだしてくる部分で、平常時の河川の流量となる。

都川流域の地下浸透量は平均して

農村地帯	410ミリ／年
近郊地帯	350ミリ／年
商工地区	270ミリ／年
単純平均	343ミリ／年

　不透水層で地表を覆うと、その地点の地下水位は、「343ミリ」×「開発後の年数」に近い数値ぐらい下がる。

２.都川の流量は谷地から出てくる（都川流域開発前）

都川の流量＝343ミリ／年×都川の流域面積72平方㎞＝2470万トン／年
１日の流量＝2470÷365＝6.7**万トン／日**

３.水源谷地が消滅すると都川の流量が減る

　都川の流域には38本の谷地（長さ0.5キロ以上の谷地））があります。これらの谷地に湧きだした地下水があつまって都川の流量になります。谷地が消滅すれば都川の流量が減ります。流域で消滅した水源谷地の数27本，水源谷地の減少した割合＝27÷38＝0.71

谷津田が減ったための　**都川の流量の減少分**＝6.7**万トン／日**×0.71
＝4.7**万トン／日**
谷地生まれの都川の流量＝6.7**万トン／日**－4.7**万トン／日**＝2**万トン／日**
１本の谷地が消滅すると、平均して
6.7**万トン／日**÷38＝1700**トン／日**　ほど都川の流量が減る。

４.都川の流量は2万トン／日か？

流域の人々が放流する生活雑排水など
16万人×１人１日0.3トン＝4.8万トン／日
都川の流量＝ 谷地生まれの都川の流量＋生活雑排水など
＝ 2**万トン／日**＋4.8**万トン／日**＝6.8**万トン／日**
生活雑排水を全部公共下水道で運び出すと、都川の流量は2**万トン／日になる。**

５.土水路は水棲生物の誕生と生活の場所

★　３面・２面のコンクリートの排水路は国道・高速道路みたいなもの、まわりに人が住めない。湧水も乾田化のために不必要。地下水位が下がるのは当然。千葉市の台地は乾き始めてから30年は経つのではないか。

★　土水路は、路地・商店の建ち並ぶ生活道路に似ている。土水路は水棲生物の誕生の場所であり、生活の場所でもある。深浅，幅にも大小，流れに遅速，杭や枯れ枝が沈んでいる土水路は水棲生物の住処となる。

★　昭和40年代、都川水系には延べ80キロの土水路があった。現在は、合計しても１キロ前後しか残っていない。これではトンボもホタルも飛ぶはずがない。現在も谷地奥には埋まりつつある土水路が残っている。これを掘りなおして、水棲生物を再生させることが出来ないか。

★　ビオトープ：森・湿地・池沼・河川などの水辺を結ぶ通路と、そこに生息している生態系。河川改修では河川と関係を持つ各種ビオトープの保全と代償（ﾐﾁｹﾞｰｼｮﾝ）措置をして、河川周辺のビオトープのネトワークをつくらねばならない。これまでの河川改修と圃場整備事業では、壊したビオトープの代償と保全の措置が全く欠けていた。公園を１つ２つ設置するだけではだめなのである。

くじらの会－学校林を育む会の活動

千葉市立横戸小学校くじらの会 中坊　陽子

落ち葉の上を歩くフカフカした感触や、カサカサと葉が触れあう音。夏から秋へ移ろう香り。熟す前に口に入れた桑の実の渋さ…雑木林でこんな体験をしながら 21 世紀を迎えようとしている子供たちがいます。約 7,000 平方ﾒｰﾄﾙという広い学校林を敷地に持つ、千葉市立横戸小学校の子供たちです。

125 年という長い歴史を誇る同校は、様々な変遷の中で、常に地域の人々に支えられてきました。学校林も学校を愛する人々からの落とし子と言えましょう。

２年前、125 周年の記念事業として，小川と池の水辺ビオトープが，全校の子供たち，職員，ＰＴＡの協力で完成しました。同時に，学校林の恵まれた環境を守り，育てていこうと「学校林を育む会」（愛称・くじらの会）が，1999 年２月に発足しました。

８月に応募した「第１回全国学校ビオトープコンクール」では，５部門中「部門・計画・協力」の３部門で優秀賞を受賞し，学校と地域が連携して取り組んだ活動が高く評価されました。

まだ完成したばかりの小川や池には，木々の影が水面に映しだされるだけでしたが，２年目の現在は，放流したドジョウやメダカが再び春を迎えて，周辺の地域からやって来たトンボやゲンゴロウなどと共存しています。近くの休耕田から採取してきた，ミゾソバ，セリ，マコモなどの植物も活着し，小川を覆い隠すほどに生育。自然の復元力の大きさに驚かされます。

学校林の自然をもっと豊かなものにして，子供たちに多くの生き物とふれあえる環境を伝えていくため，くじらの会では，小川の手入れや観察だけでなく，様々な活動に取り組んでいます。

例えば，竹，石，落ち葉を使ったカブトムシ，トカゲ等の生き物の住みか作り，実の生る木の植樹，ネイチャーゲーム，セミの抜け殻調べ，森林の樹木調べなど。こうした活動は，学校林の自然を再認識することにもつながりました。

くじらの会のプログラムで，子供にも大人にも大好評だったのが，キノコづくり。始めに図解入りのパネルを使って，キノコの生態と役割りを学びました。次はコナラを切り倒す作業。子供がノコギリで切れ目を入れ，大人がチェーンソーで倒しました。伐採した木は，シイタケ用に長さ 90 ㎝，短木栽培用に 15 ㎝に切り直します。

ドリルで穴を開けシイタケ菌を打ち込む子供たち，ノコギリの使い方を教えてくれたお父さん，ヒラタケ用にオガクズとヌカの団子を作ってくれたお母さん。始めは危なかしい手つきでノコギリやドリルを使っていた参加者も，慣れてくると楽しみながらの作業です。

秋には，大きく育ったヒラタケを収穫し，キノコ鍋を味わいました。汗を流し自分で栽培したキノコの味は格別。普段キノコを食べない子供が，お代わりしてお母さんを喜ばせる一場面もありました。

今後は，同じような地域活動をしている人々との交流を深めながら，くじらの会が地域にもっと定着していくよう活動を続けたいと思います。どうぞ，横戸の森へ遊びに来て下さい。

オオタカ・カエル・トンボから見た谷津田の特性と価値

さくら・人と自然をつなぐ仲間　美濃和 信孝

1．谷津田は生きものの宝庫である。

人里近くの里山・谷津田は、その面積規模のわりには、また、人がすぐ近くにいるにもかかわらず、生きものの種類、個体数が豊富である。その理由は、農業生産と結びついてつくりだされた水田、林地、草地がモザイク的に配置しており、人為により様々な植物群落が用意されていると同時に、水環境の条件も多様なためである。例えば、ヒキガエル、アカガエル等の両生類は、卵とオタマジャクシの時期を水田あるいは水田脇の水路ですごすが、変態後は林内あるいは水辺の草地で生活する。それゆえ、伝統的な水田耕作が行なわれている谷津田では、ニホンアカガエルの卵塊数が大変多い。ニホンアカガエルの多い谷津田は、それを餌にする鳥類、サシバの姿も多くみることができる。

われわれのグループでは、今年度佐倉市内の 10 個所の谷津田について、指標生物を中心とする調査を行ってきたが、ニホンアカガエルの卵塊数とサシバの目撃回数とのあいだに良い相関のあることが明らかになった。また、佐倉市には、湧水の豊富な谷津田が市南部に多い。図.1 に示した米戸はそういう湧水が豊富な谷津に当たる。ここでは、キイロサナエやヒガシカワトンボなど、湧水が豊富に流れる川を生活の場とするトンボの多いことが明らかになった。

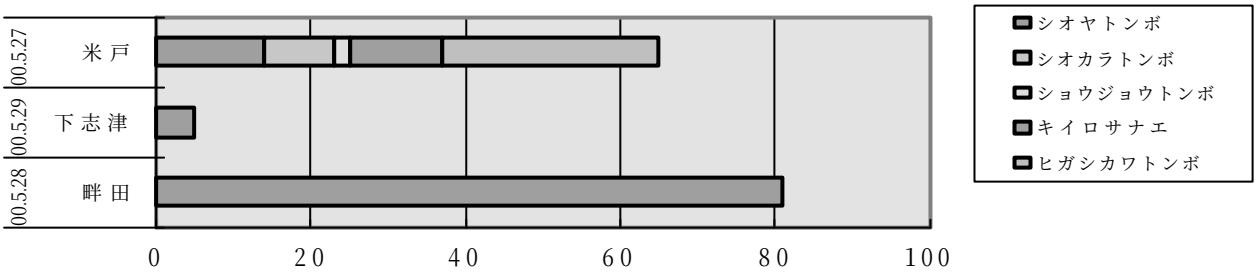

図.1　各谷津田におけるトンボの個体数　(頭/km)

2．ほっておいては谷津田は保全できない。

ここでいう、ほっておいてはというのは二つの意味がある。大規模、小規模にかかわらず、開発が進んでいけば、いつのまにか生きものは少なくなってしまう。特に広い面積を必要とするオオタカなどの猛禽類はその顕著な例である。開発による森林や農地の消失はもちろんのこと、道路が１本できるだけで生息区画が分断され、生息が不可能になってしまう恐れが多分にある。身近な自然に関心を持ち、生物環境を常にモニタリングして、このような危険を少しでも回避するよう努めるべきである。

表 1.佐倉市に生息する猛禽類の生息地としての最小必要面積(ha)

種類	生息区画面積	森林面積	水田と畑合計面積	調査区各数
オオタカ※	278	45	131	6
サシバ※※	122	20	85	16
ノスリ※※	118	19	98	8
チョウゲンボウ※※	106	0.5	106	10

※ 美濃和他、佐倉市自然環境調査報告書(2000 年 3 月)P373

※※長谷川雅美、佐倉市自然環境調査報告書(2000 年 3 月)P186

もう一つのほっておくことという意味は、水田の放棄田化、里山のヤブ山化のように、人手が入らなくなったことで自然が荒廃し、多様性が失われていくという意味においてである。

人為が加わらなくなった時点で植生の遷移が進行し、長い年月の間には極相と呼ばれる植生となって安定する。それ自体は自然の回復過程であり、歓迎すべきことであるかもしれない。しかし、水田耕作にライフサイクルを合せるように生きてきたトンボやカエル達にとって、放棄され、アシやガマが生い茂るようになった谷津田で生きていくことはできない。雑木林を生活の場としてきた多くの草花や昆虫にとっても状況は同じである。

3．失われつつある里山・谷津田の保全のこころみ

かつては身近なところにどこでもあった里山・谷津田の自然が危機に瀕している。一方では都市化、一方では人の入り込めないヤブ化が進み、人と自然との距離がますます遠くなろうとしている。

われわれは、人と自然との関係性の回復を目指して、里山林の手入れを３年前から開始したのを皮切りに、現在では以下のような活動を行っている。

・里山林の手入れ	佐倉市民の森、佐倉市岩富の民有林
・放棄田の池堀り	佐倉市畔田、佐倉市直弥
・魚道の設置	佐倉市畔田
・湧水ビオトープ	佐倉城址公園内（計画中）
・谷津田調査報告書	佐倉市内１０の谷津田の生物環境調査（継続中）

谷津田で環境学習－幼稚園での実践－

やひろ学園モンテッソーリ子供の家　教諭　古川　恵美子

やひろ学園は千葉県習志野市にある小さな子どもの家です。園児は 2 歳半から 5 歳児まで縦割りクラスの約 30 名で生活をしています。

園のある習志野市大久保は駅前などに比べると、閑静な住宅街で自然も多い方です。近くに公園などもありますし、開放はされていませんが園の目の前にも“習志野の森”という大きな森があります。そちらでも年 4 回の環境学習体験プログラムに利用させていただいています。

幼児期に五感を通した体験というのはとても大切なことで大人よりも早いスピードで感じる心や学ぶ力を吸収しています。

環境学習を始め、今年で 4 年目になりますが、習志野の森で四季を感じることから始まり、99 年から夏のプログラムでは千葉市緑区下大和田の谷津田での川遊びを取り入れるようになりました。

下大和田谷津で土水路に入っての川遊び

川遊びを行うにあたり以下のようなことに配慮しました。

① 下見を充分に行う

今まで、目の前の森を使った環境学習でしたが、場所が変わるということで、特に安全面に注意し、電車、バス、車、いろいろな方法を考えました。

② 駐車場の確保（地域の方の協力により広いスペースをお借りする）

場所が遠いので車で来る方がほとんどでしたが、環境にも良くないので、こちらでは駐車件を発行し、どうしても…と言う方にのみお配りする方法をとらせて頂きました。駐車場係りもご父母の方に協力していただき、駐車場の入口看板なども手作りしてくださいました。

③ 事前にトイレへ行く

水田周辺にはトイレがないので、必ずサービスエリアなどで済ませてくるようにしました。

メダカ，ザリガニ，シジミも採れます

④ 参加人数

プログラムを行うにあたり、環境を守ることを一番に考えました。全員で川に入ると田んぼのあぜ道を壊してしまうなど、問題が生じるので２グループで時間を分けてザリガニ釣りとメダカ捕りグループに別れて活動しました。家族全員での参加、これもまた多人数になってしまうので、今回の川遊びに関しては“父子”の限定にしました。

⑤ 昼食場所

昼食を現地でとることはさけ、環境に配慮し午前中で終了しました。

このように一番に環境を守ること考えました。

川で捕ったメダカやザリガニは現地で観察後、川に返し数匹だけ持ち帰り、観察しています。そうすることによって、生き物の命の大切さを感じることや育てることで小動物への愛着心も深まります。

採集した生き物はケースに入れて観察します

一年前に捕った魚が水槽の中で大きく成長し、観察している家庭も多くあります。園に帰ってからも絵を描いたり、話しあいをして振り返りも行いました。川へ行って終わりではなく、子どもも大人もアンケートで振り返りをし、話し合う機会を充分とるようにしています。

２１世紀のちば・谷津田フォーラム

ちば・谷津田フォーラム代表　中村　俊彦

一昨年の10月に「ちば・谷津田フォーラム」が立ち上がって、もうすぐ1年半になろうとしています。このフォーラムの発起人の一人でありながら、当初、代表のお引き受けを重荷に感じ渋々であった私でしたが、皆さんの熱心さに刺激され、今では、千葉の谷津田とフォーラム運営のことがいつも頭の中にうごめくようになってしまいました。

おかげさまで、10名の顧問の先生方の参画をはじめ、会員も246名を数えています。観察会や勉強会も月２～３回の頻度で開催してきました。昨年の11月の「環境シンポジウム2000千葉会議」では、これをフォーラムで後援するとともに、その実行委員会にはフォーラムから多数の方に参画して頂きました。その第３分科会においてはフォーラムが中心になって「谷津田・里山の保全を考える」シンポジウムを開き、４つのグループに分かれての熱心な議論と情報交換がおこなわれました。その中で、特に私がうれしかったことは、農家の方々に多く参加していただけたことです。これまで谷津田を考えるにおいても、住民や行政，研究者といった仲での議論が多かったきらいがありました。農家の方からはよそ者扱いされた経験もあります。我々にとって、農家の方々は自然を守る先生です。これからもいろんなことを教えていただきたいと思います。

21世紀になってもうすぐ２ヶ月経とうとしていますが、世の中、あまりよい話題がありません。しかし、私は人々の意識がこれまでと違って大きく変わってきていることを実感しています。東京新聞元旦の特集記事の中に、国民の意識調査「日本は21世紀、どういう国を目指すべきと思いますか」の結果がありました。その1位は「環境立国」の34.1%でした、2位が「福祉立国」、３位は「文化立国」でした。そして「経済立国」と「科学技術立国」はそれぞれ12.5%と11.8%と驚くほど低いのです。また、読売新聞の全国世論調査が１月10日に発表されましたが、「21世紀の日本はどのような国であってほしいか」の問いの答えの第１位は「自然や地球環境を大切にする国」の60.8%でした。さらに、「あなたは、今の生活がある程度不便になったり、快適でなくなるとしても、自然や地球環境の保護に力を入れるべきだと思いますか」の問いに対しても77.4%もの人が「そう思う」と答えているのです。

このような社会状況にありながら、自然保護や環境保全についての政治や行政、また学術・研究面での対応は極めて不十分な状態です。そんな21世紀のはじまりの中で、ちば・谷津田フォーラムのふんばりは益々重要と思います。

環境シンポジウム２０００千葉会議

ちば・谷津田フォーラム事務局　田中　正彦

2000年11月19日「環境シンポジウム2000千葉会議」（環境シンポジウム2000実行委員会主催，ちば・谷津田フォーラム，ちば環境情報センターほか後援）が富士通幕張システムラボラトリで開催され、地球温暖化，ゴミ問題，谷津田・里山の保全，環境学習など５つの分科会に分かれて活発な意見交換が行われました。

130 名を越えた第３分科会の参加者

ｹﾋﾞﾝ・ｼｮｰﾄ氏，中村俊彦代表の谷津田トーク

第１グループ「谷津田に生きる命に学ぶ」
－生物から見た谷津田の価値と環境学習への利用－

第２グループ「谷津田・里山と人の暮らしの関わり」

第３分科会「谷津田・里山の保全を考える」～オオタカ・トンボ・メダカ・人会談～では、企画段階から当フォーラムのメンバー達が中心となって、会の運営に当たりました。当日は当会顧問のケビン・ショート氏の「里山・日本のカントリーサイド」と題した講演もあり、130名を越える参加者でにぎわいました。また、同時に開催された谷津田の写真・スケッチ展（当フォーラム主催）も、四季折々の谷津田景観や動植物の写真，絵画，絵本など合計100点余りの作品が集まり、松下優子さん制作のパソコンソフト「谷津に行こう！」の演示や谷津田絵本「ミケ谷津に行く」の展示とあわせて大好評でした。ご協力いただいた方々に紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。（写真撮影：森将憲氏）

第３グループ「谷津田の保全とまちづくり」

第４グループ「楽しみながら保全活動」

谷津田の写真・スケッチ展

【ちば・谷津田フォーラム活動記録】

	活動名	実施年月日	活動場所	備考
1	**第１回ちば・谷津田フォーラム設立準備会会議**	1999 年 9 月 4 日	千葉市蘇我勤労市民プラザ	
2	**第２回ちば・谷津田フォーラム設立準備会会議**	1999 年 9 月 28 日	千葉県立中央博物館	
3	**第３回ちば・谷津田フォーラム設立準備会会議**	1999 年 10 月 13 日	千葉県立中央博物館	
4	ちば・谷津田フォーラム設立総会	1999 年 10 月 23 日	ＮＴＴ幕張ビル会議室	**主催**
5	**第１回幹事会**	1999 年 11 月 6 日	ちば環境情報センター事務所	
6	**第２回幹事会**	1999 年 11 月 29 日	ちば環境情報センター事務所	
7	**谷津田観察会「大草谷津」講師**	1999 年 12 月 9 日	千葉市若葉区大草	**案内**
8	ちば・谷津田フォーラム会誌第１号発行	1999 年 12 月 24 日	ちば環境情報センター事務所	
9	谷津田と湧水の里を訪ねて「大藪谷津」	2000 年 1 月 16 日	千葉市緑区大藪谷津	**共催**
10	**第３回幹事会**	2000 年 1 月 25 日	ちば環境情報センター事務所	
11	第１回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2000 年 2 月 20 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
12	**第４回幹事会**	2000 年 3 月 9 日	ちば環境情報センター事務所	
13	ちば・谷津田フォーラム会誌第２号発行	2000 年 4 月 1 日	ちば環境情報センター事務所	
14	第２回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2000 年 4 月 2 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
15	**第５回幹事会**	2000 年 4 月 20 日	ちば環境情報センター事務所	
16	第３回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2000 年 5 月 14 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
17	見学会　四街道市「くりの里山トンボ池」	2000 年 5 月 21 日	四街道市	**主催**
18	**第６回幹事会**	2000 年 5 月 24 日	ちば環境情報センター事務所	
19	第４回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2000 年 6 月 4 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
20	**第７回幹事会**	2000 年 6 月 20 日	ちば環境情報センター事務所	
21	第５回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2000 年 7 月 2 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
22	勉強会「調整池・調節池と自然保護」	2000 年 7 月 14 日	千葉市文化センター第２会議室	**主催**
23	**第８回幹事会**	2000 年 7 月 18 日	ちば環境情報センター事務所	
24	ちば・谷津田フォーラム会誌第３号発行	2000 年 7 月 20 日	ちば環境情報センター事務所	
25	**第９回幹事会**	2000 年 8 月 22 日	ちば環境情報センター事務所	
26	2000 年度ちば環境情報センター研修会実践活動「有機農法の勉強会と谷津田調査票記入講習会」	2000 年 9 月 3 日	千葉市緑区下大和田	**共催**
27	第６回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2000 年 9 月 3 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
28	下大和田地区保全に関する意見交換懇談会	2000 年 9 月 14 日	千葉市緑区土気	
29	**第 10 回幹事会**	2000 年 9 月 26 日	ちば環境情報センター事務所	
30	第７回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2000 年 10 月 1 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
31	第８回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2000 年 10 月 14 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
32	ミニシンポジウム・都川はいま・・・「専門家と市民からみた都川」その望ましい姿	2000 年 10 月 18 日	千葉市文化センター 9 階第 2,3 会議室	**主催**
33	第９回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2000 年 10 月 14 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
34	第２回 Love　Our　Bay　募金助成金供与	2000 年 10 月 21 日	海浜幕張駅北口広場	
35	第 10 回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2000 年 11 月 5 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
36	第 11 回幹事会（環境ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ 2000 千葉会議合同）	2000 年 11 月 7 日	千葉市コミュニティーセンター	
37	環境シンポジウム２０００千葉会議	2000 年 11 月 19 日	富士通幕張システムラボラトリ	**後援**
38	谷津田の写真・スケッチ展	2000 年 11 月 19 日	富士通幕張システムラボラトリ	**主催**
39	第 11 回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2000 年 12 月 3 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
40	第 12 回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2001 年 1 月 7 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
41	**第 12 回幹事会**	2001 年 1 月 19 日	千葉県立中央博物館	
42	第 13 回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2001 年 2 月 4 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
43	**第 13 回幹事会**	2001 年 2 月 21 日	千葉県立中央博物館	
44	第 14 回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」	2001 年 3 月 4 日	千葉市緑区下大和田	**主催**
45	ちば・谷津田フォーラム会誌第４号発行	2001 年 3 月 7 日	ちば環境情報センター事務所	

11.第１回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」(00.2.20)

14.第２回「下大和田谷津の観察とごみ拾い」(00.4.2)

17.**見学会　四街道市「くりの里山トンボ池」**(00.5.21)

26.有機農法の勉強会と谷津田調査票記入講習会(00.9.3

32.ミニシンポジウム・都川はいま・・・(00.10.18)

―谷津田ファイル―　*千葉県内の谷津田に関する新聞記事などの紹介です。*

「人と自然 共生のモデル」

谷津田 消滅くい止めろ

「フォーラム」が発足

全県で調査・保全へ

今ある谷津田とその周辺環境を守るために、ちば・谷津田フォーラムが発足したことを伝える新聞記事。千葉市周辺の谷津田分布図が掲載されている。(2000 年 2 月 4 日朝日新聞)

睦沢町上市場の農村自然環境整備事業で完成した「今堰」の谷津田で、子供や老人クラブが共同で「田んぼの学校」を開いた。(2000 年 10 月 13 日千葉日報)

"歓声響く" 自然の学校

稲刈りやザリガニ釣り

世代を超え交流

睦沢町の「今堰」谷津田を活用

佐倉・畔田沢の谷津田

水路の生物に小さな「階段」

市民団体と市 自然回復へ 魚道つくる

市民と行政の協力で、谷津田の土水路と本流との段差解消に取り組んだ。
(2000.11.15 朝日新聞朝刊)

2部・地球と共に生きる循環型都市

ふれあい・躍動…

21世紀の政令市像探る

新五か年計画原案より

消え行く谷津田活用

●●3

太陽光発電 上乗せ助成

大正時代は127カ所あった谷津田も現在は50カ所程度にまで減少している＝緑区下大和田町

千葉市新五か年計画案のなかで、自然とふれあう環境づくり事業として「谷津田生き物の里整備」が盛り込まれた。これは従来エコミュージアム事業という名称で呼ばれていた計画が「谷津田・・・」に名称変更されたものである。

（2001年1月17日千葉日報）

千葉市環境局環境保全部環境調整課発行の「エコライフちば　VOL.17（2001年2月号）で、ちば・谷津田フォーラムの「下大和田谷津田観察会とゴミ拾い」のようすが表紙を飾った。地元市民が中心となった小さな行動が、次第に実を結び始めている。

観察会は毎月第1日曜日に行われており、2001年3月4日の観察会が14回目になる。まだの方は、是非ご参加ください。

（エコライフちば・VOL.17）

ちば・谷津田フォーラム定期観察会
―下大和田谷津田観察会とゴミ拾い―

場　所：千葉市緑区下大和田
開催日：毎月第1日曜日
　　10：00～12：00
集　合：中野操車場または現地 10:00
交　通：中野操車場へは JR 千葉駅 10 番千葉フラワーバスで 45 分（520 円）
　　車の場合は東金有料道路を中野料金所で降りて東金街道に入り、東金に向かって 1.5 kmほどで右側にラーメンショップの看板がみえてくる。道路をはさんで反対側がバス停。駐車場あり（会員の林理氏提供）
持ち物：弁当，水筒，敷物，長靴など
参加費：３００円（保険代，資料代）
主　催：ちば･谷津田フォーラム
連絡先：ちば環境情報センター
　　TEL＆FAX　043-223-7807

＜事務局より＞

●ご寄付くださった方々

会誌３号発行以降、次の方々から合計金額 172,000 円のご寄付をいただきました。紙面を借りてご報告いたしますとともに厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。（順不同・敬称略）

外川仁，親泊素子，椎名益男，高橋在久，富田英二，中村俊彦，本領基男，芳我めぐみ（千葉みちくさ会として），荒木佳子，伊神秀人・朋子，小泉力，佐藤広史，林　理，三沢博志，石原京子，稲見慎三，大沢昌子，斉藤正一郎，佐藤正彦，志自岐百々代，根本正之，八木滋，小田信治，角川浩，原慶太郎，島田秀一，志村智子，中村久美子，二瓶栄子，花立良江，山田昌之，山本迪代，飯沢利子，伊藤文子，植田健仁，大河内明美，片山みや子，河口智志，柴田大丈，渋谷孝子，城之内建一，武藤はるか

会の運営のため、今後とも引き続きご寄付いただきたく願い申し上げます。
郵便振り込み口座番号：００１２０－０－１８７８７４　ちば・谷津田フォーラム

【ちば・谷津田フォーラム会則】

1.目的

本会は、谷津田とこれを取りまく自然環境に関する資料収集,調査研究,情報交換とともに、その保全にかかわる具体的活動等をおこなうことを目的とする

2.会員

会員は、谷津田保全に関心のある個人および団体とする

3.組織

本会は、代表1名、副代表2名、顧問若干名、幹事若干名の役員をおく

4.役員任期

役員の任期は2年とし、再選をさまたげない

5.会費

会費は無料とする

6.事務局

事務局は千葉県内におき、事務局長１名、事務局員をもって組織する

付則

この会則は 1999 年 10 月 23 日より施行する

イベントのお知らせ

船橋市坪井谷津の自然観察会

船橋市で最も自然豊かな場所である坪井谷津の谷津田や里山（本会誌3ページ参照）を観察します。また、ここで農業をつづけていらっしゃる農家の方のお話を伺いながら、この地の開発計画と谷津の自然環境の保全についての勉強会をおこないます。

日　時：3月18日（日）10:00～16:00

集　合：東葉高速鉄道 船橋日大前駅 駅前ロータリー10:00

※新京成線北習志野駅乗り換え，勝田台方面に向かって一つ目下車

日　程：午前　坪井地区の谷津田・里山の自然観察　　※雨天実施

午後　習志野台公民館に移動して開発と自然保護についての勉強会

・講演「谷津田の現状と将来の展望」中村俊彦（ちば・谷津田フォーラム代表）

主　催：谷津田ネットワーク・みどりの会，ちば・谷津田フォーラム

連絡先：047-448-1860（高山），047-445-3208（倉田）

ちば・谷津田フォーラム第２回ミニシンポジウム

－私たちの望む「都川」のかたち－

改修計画が進められている都川や都川遊水池の保全について、一緒に考えましょう。

日　時：3 月 24 日（土）　10:00～12:30

場　所：千葉市生涯学習センター研修室３
千葉市中央区弁天　3-7-7

定　員：40 名

参加費：無料

主　催：ちば・谷津田フォーラム

共　催：ちば環境情報センター

連絡先：ちば環境情報センター
TEL&FAX 043-223-7807

（この企画は第８回千葉市「学びを楽しむ日」の参加事業です。）

●顧問（敬称略・50 音順）

石川　　清	社会貢献活動企業推進協議会代表
岩瀬　　徹	千葉県生物学会副会長・千葉県立中央博物館友の会会長
沼田　　眞	千葉大学名誉教授・（財）日本自然保護協会会長
大沢　雅彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
楠岡　　巖	四街道ユネスコ協会会長・四街道ライオンズクラブチャーターメンバー
ケビン・ショート	博物学・自然史ライター
椎名　益男	ライオンズクラブ国際協会（千葉県）環境保全委員長
高橋　在久	東京湾学会理事長
中島　拡子	千葉県生活協同組合連合会顧問
根本　正之	東京農業大学地域環境科学部教授

●組織・運営

・代　　表：中村俊彦（千葉県立中央博物館）
・副 代 表：岩田好宏（千葉県自然保護連合），原慶太郎（東京情報大学）
・事務局長：川本幸立
・会　　計：小西由希子
・編　　集：田中正彦，小西由希子，松下優子
・幹　　事：調査研究・教育普及（齋藤正一郎，田中正彦，栗原裕治，小川かほる，小西由希子）
　　保全活動（大槻憲昭，中野雅藏，高山斉一郎）

【会員名簿】2001 年 2 月 26 日現在（50 音順・敬称略）

阿河眞人，秋本靖匡，秋山昭治，浅川裕之，浅間茂，浅村益弘，東昭男，天野外支子，網野雅章・節子，雨嶋克憲，綾富美子，荒尾繁志，荒木佳子，飯沢利子，飯嶋茂，飯村扶美恵，井岡雅子，伊神秀人・朋子，池田智美，池竹則夫，石井規雄，石川清，石崎千恵，石原京子，石原正規，伊藤純子，伊藤文子，稲葉八郎，稲見慎三，井上孝則，猪坂玲子，今井美枝子，岩瀬徹，岩田孝昭，岩田好宏，岩橋百合，植木啓美，植田和雄，植田健仁，植田美千代，上村明子，牛山志穂，内田ふき，梅里之朗，瓜生達哉，江口晴美，江見照夫，遠藤陽子，大河内明美，大沢昌子，大沢雅彦，太田慶子，大谷文子，大塚直樹，大槻憲昭，大野節子，大浜和子，岡嘉弘，岡野清美，岡野寛，小川かほる，小田信治，小野由美子，親泊素子，角井一雄，籠谷公輔，柏木靖子，片山みや子，角川浩，金親智士・みどり，金子恭香，金子美幸，唐沢孝一，川井洋基，川北裕之，河口智志，川崎利男，川島洋，川島真弓，川瀬一世，川出直子，河辺良晋，川本幸立，神林直彦，北澤哲弥，日下部信雄，楠岡巖，熊谷宏尚，倉西良一，栗原裕治，栗山佑子，ケビン・ショート，小池新，小泉力，越川重治，小瀧康男，児玉正直，小西由希子，小林晶子，小林洋生，小松裕幸，古宮洋，齋藤哉子，齋藤久美子，斉藤正一郎，榊原政芳，佐藤辰男，佐藤信和，佐藤広史，佐藤正彦，椎名益男，志自岐百々代，四戸孝治，篠崎秀次，篠村善徳，柴田大丈，渋谷孝子，澁谷廣和，島田秀一，嶋津雅照，志村智子，朱宮丈晴，上善峰男，上西忠，城之内建一，白井邦彦，神伴之，新保國弘，新保浩一郎，須賀はる子，杉田権，杉野光明，杉山龍，鈴木藤蔵，鈴木智子，鈴木裕子，鈴木優子，関口三樹，曽我可津子，田井中信子，高橋在久，高橋勇夫，高橋武，高橋克，高平道子，高山清隆，高山斉一郎，田口勇，竹之内義郎，田勢利久，田中茂，田中利勝，田中利彦，田中正彦，玉木明，為貝和弘，都留純秀，海正衛，外川仁，富田英二，百目木純子，長井芳夫，長澤亨，中嶋拡子，永瀬洋子，中田武彦，長沼映夫，仲野昭義，中野雅藏，中磨保子，中村久美子，中村俊彦，中山千春，中山敏則，那須守，成谷久邇子，新島偉行，西川武雄，西部洋晴，二宮豊，二瓶栄子，沼田眞，根本正之，根本正之，芳我めぐみ，長谷川繁子，鳩貝太郎，花立良江，林理，林重孝，原慶太郎，平井幸夫，深沢儀晃，福田恵，藤井明惠，藤川尚文，藤崎良次，藤代美鈴，古川美之，星早織，本沢裕子，本領基男，巻木弘子，増原直樹，増山哲男，松浦俊也，松尾昌康，松下優子，三沢博志，三島ガケ宏之，南川忠男，三幣良信，美濃和信孝・直子，三原真子，宮川沙弥香，宮沢友子，宮下和喜，宮本明宜，麦野裕，武藤歌織，武藤はるか，村上敏，村杉久子，村田威夫，森富子，森岡節夫，八木滋，柳沢朝江，山井廣，山口純子，山口由富子，山崎恒弥，山崎秀雄，山下慶治，山田英二，山田寛治，山田昌之，山本晃一，山本迪代，横林庸介，吉野徳子，和田恵子，和仁道大　（以上 246 名）

この活動は「千葉市地域環境保全自主活動補助金」および「Love Our Bay 募金助成金」による支援を受けています。

ちば・谷津田フォーラム会誌第４号
発行日：2001 年 3 月 7 日
発　行：ちば・谷津田フォーラム　〒260-0013　千葉県千葉市中央区 1-6-9 ちば環境情報センター内
TEL&FAX 043-223-7807　　代表　中村　俊彦
編集責任者：田中　正彦，小西　由希子　　カット：松下　優子
郵便振り込み口座番号：００１２０－０－１８７８７４　ちば・谷津田フォーラム